

参議院選挙に向けてのアピール

核兵器廃絶と平和を願う全国のみなさん、7月の参議院選挙が目前に迫りました。

今度の選挙は、「戦争か平和か」、世界と日本の進路、国民の命と安全、生活がかかった大変重要な選挙です。

一つは、核兵器全面禁止の先頭に立つのか、それとも米国の「核の傘」＝核兵器に依存し、核使用を許すのか、被爆国としての立場を根本から問う選挙となります。

ロシアのプーチン大統領は、核兵器で世界を脅しながら、無法な侵略を続けています。核兵器は「抑止」と無縁の脅迫と支配、侵略の道具にほかなりません。核兵器が存在する限り、核戦争の危険はなくなりません。

ウクライナ問題を口実にして、安倍元首相や日本維新の会から、日本でも米国との「核共有」の議論をすべき、非核三原則は見直すべきとの主張や提言が出されています。岸田首相も米国の核兵器を含む拡大抑止は「大変重要」といい、先の日米首脳会談では、その強化を確認しました。

「核抑止」とは「いざとなったら核兵器を使う」が前提です。それは被爆者が告発しているように、「日本を核戦争に導くもの」にほかなりません。核兵器による破滅の道ではなく、核兵器禁止条約に参加し、核兵器全面禁止・廃絶の先頭に立つ被爆国にふさわしい政治を実現しましょう。

もう一つは、戦争ではなく平和を、改憲ではなく、国連憲章と憲法の示す道へと前進させる選挙になることです。

ロシアによるウクライナ侵略から3か月。国連憲章をじゅうりんし、何の罪もない子どもたちや一般市民を標的にした殺りくが繰り返され、国際人道法違反の戦争犯罪が続いています。ロシアの侵略を終わらせるためにも、「国連憲章を守れ」の一点で世界が団結し、ロシアを包囲することが求められています。

岸田首相はバイデン米大統領との首脳会談で、日米同盟の強化と軍備の大増強を約束しました。「武力による威嚇又は武力の行使は、国際紛争を解決する手段として永久に放棄」（憲法9条）した日本こそ、国連憲章にもとづいたウクライナ問題の外交解決の先頭に立つべきです。

ウクライナ危機に乗じた9条改憲、「戦争する国」づくりを絶対に許してはなりません。国民の生活を根底から破壊する軍事費の2倍化を許さず、憲法9条をいかした平和外交に転換させましょう。

みなさん、

「ロシア軍はウクライナから直ちに撤退せよ！」「国連憲章を守れ！」「軍事費の2倍化反対！」「憲法9条をいかした平和外交を！」「日本政府は核兵器禁止条約に署名・批准を！」の声を全国津々浦々であげましょう。その願いを実現できる国会議員・勢力の躍進のために、宣伝・対話・署名に全力をあげましょう。

被爆者証言、「原爆と人間展」パネル、高校生の「原爆の絵」展を無数に開きましょう。市民と野党の共同を発展させましょう。世界大会パンフの学習を力に行動しましょう。たたかひの成果を8月の原水爆禁止2022年世界大会に結集しましょう。

2022年5月26日 原水爆禁止日本協議会